

第九十回
帝國議會
貴族院

勞働關係調整法案特別委員會議事速記録第一號

(二六)

付託議案 ○勞働關係調整法案

委員氏名

委員長 男爵渡邊 修二君
副委員長 子爵高木 正得君
委員 公卿三條 實春君
侯爵東鄉 應春君
侯爵鍋島 直泰君
伯爵王生 基泰君
子爵秋月 種英君
子爵松平 乘統君
子爵大久保 俊尚君
子爵三宅 直勝君
桑木 嚴寬君
牧野 英一君
吉田 久君
男爵松本 本松君
男爵山根 健男君
男爵山名 義鶴君
男爵中村 儀雄君
種田 虎雄君
我妻 榮君
正田貞一郎君
竹中廣右衛門君
中山 太一君
片倉兼太郎君
秋田 三一君
古垣 鐵郎君

昭和二十一年九月九日(月曜日)午前
十時三十一分開會

○委員長(男爵渡邊修二君) 是ヨリ開
會致シマス、先ヅ政府ノ説明ヲ求メマ
ス

○國務大臣(河合廣成君) 勞働關係調

整法案ノ概要ニ付テ御説明申上ゲマ
ス、本法案ノ提案ノ理由ニ付キマシテ
公、既ニ本會議ニ於テ申述ベタ通りデ
アリマスガ、要點ヲ申シマスレバ、本
法ハ勞働組合ニ依リマシテ勞働組
合ノ健全ナル發達ヲ促進助長致シマス
コトヲ相俟チマシテ、爭議權ニ最少限
度ノ制限ヲ加ヘテ、公共ノ福祉ヲ擁護
致シマス一方、勞働關係當事者間ニ不
幸ニシテ意見ノ不一致ヲ招來致シマシ
場合ニ、之ヲ公正ニ且迅速ニ解決致シ
マシテ、産業ノ平和ヲ維持シ、以テ日
本再建ニ寄與セムトスル譯デアリマ
ス、簡單ニ以下其ノ内容ヲ説明致シマ
スルト、先ヅ第一章總則ニ於キマシテ
ハ、以上述べマシタ根本精神ヲ明カニ
ルコトヲ目的トシテ居ルモノデアリ
マシテ、殊ニ第二條及第三條等ニ於キ
マシテハ、爭議ハ當事者ノ自主の努力
ニ依ツテ解決スベキモノタルコトヲ本
旨ト致シマシテ、政府ハ其ノ自主の努
力ニ援助ヲ與フルニ止マルモノデア
リマス、又第八章ニ於キマシテハ爭議制
限ヲ爲ス公益事業ノ範圍ヲ必要ノ限
止ムルコトヲ規定シテ居ル次第デア
リマス、次ニ第二章、第三章、第四章
ニ於キマシテハ、勞働爭議ガ發生シタ
場合ニ於キマスル斡旋、調停及仲裁ニ
關スル規定ヲ設ケテ居ルモノデアリマ
シテハ、斡旋ト申シマスノハ、爭議ノ起
キ、又起キムトスル場合ニ、學識經驗
ヲ有スル者ヲシテ爭議當事者間ヲ斡旋
セシメテ、サウシテ、自主のニ和解セ
シメルコトヲ目的トシテ居ル制度デア

リマス、又調停ト申シマスノハ、調停
委員會ト云フモノヲ設ケマシテ、當事
者双方ノ意見ヲ能ク聽キマシテ調停案
ヲ作成シマシテ、之ヲ兩當事者ニ提示
致シマシテ、其ノ受諾ヲ勸告スルモノデ
アリマスガ、第十八條第一項第三號乃
至第五號ノ所謂強制調停ノ場合ト雖
モ、調停案ノ受諾ヲ強制スルモノデハ
アリマセヌ、調停ニ掛ケルコトヲ強制
スルニ止マリマシテ、調停案其ノモノ
ハ何時デモ當事者ノ任意ト致シテ居
リマス、其ノ次ニ仲裁ト申シマスルノ
ハ、是ハ勞働委員會デ仲裁ノ裁定ヲ致
シマス、當事者ハ必ズ之ニ服サナケ
レバナラヌト云フ制度デアリマス、從
ヒマシテ此ノ仲裁ト云フコトハ、豫メ
當事者双方ニ於テ之ニ服從スルト云フ
同意ガアルトカ、或ハ勞働協約ニ於テ
サウ云フコトヲ規定スルト云フコトヲ
前提トシテ居ル次第デアリマス、併シ
以上ノ三方法ノ何レノ場合ニ於キマシ
テモ、當事者双方ノ合意ニ依リマシテ
本法ニ規定シテ居ル者以外ノ者ノ斡
旋、調停乃至仲裁ヲ受ケルコトハ、勿
論隨意デアリマシテ、決シテ此ノ法律
ニ依ツテ之ヲ制限シテ居ルモノデアリ
マセヌ、第五章ハ爭議行為等ノ制限禁
止ニ關スル規定デアリマシテ、第一ニ
工場等ニ於キマスル安全ヲ危クスルヤ
ウナ行為ハ一切禁止シテ居リマス、次
ニ特定ノ公益事業ニ付キマシテハ、所
謂撓打爭議ト云フモノヲ禁止シテ、國
家公衆ニ對シテ爭議發生ニ對處スル爲
ニ必要ナル餘裕ヲ與ヘ、且此ノ間輿論
ノ撓打ヲ十分受ケ得ルヤウニシテ、此

ノ撓打爭議ト云フモノノ突發のニ起ル
コトヲ禁止シテ居ル譯デアリマス、又
第五章ニ於キマシテハ更ニ警察官吏、
消防職員、監獄勤務者、其ノ他一般ノ
官吏等ノ爭議行為ニ付テハ之ヲ禁止
シテ居リマス、ソレハ是等ノ官吏ノ職
務ハ國家ニ缺クベカラザル性質ノモノ
デアルト云フ理由ニ依ツテ、之ヲ禁止
シテ居ル次第デアリマス、ソレカラ尙
第五章ノ最後ニ於キマシテ、爭議行為
ヲ爲シタル故ヲ以テ解雇若シタハ其ノ
他ノ不利點ヲ取扱フ爲シテハナラナイ
コトニ致シテ居リマス、最後ニ第六章
ニ於キマシテハ、是等ニ關スル必要ナ
經費ノ辨償ニ關シテ規定シテ居リマ
ス、以上ガ大體本法案ノ概要デアリマ
スルガ、本法案自體ハ勞働爭議ノ豫防
解決ニ關スル謂ハバ技術的ノ規定デア
リマシテ、又諸外國ノ法制ニ比較致
シマシテモ、寧ろ消極的ナ感ガアルノ
デアリマシテ、是ノミヲ以テ勞働爭議
ノ豫防解決ノ方法ノ全部デナイコトハ
勿論デアリマシテ、爭議發生ニ至ル原
因、例ヘバ賃金其ノ他ノ勞働條件、或
ハ更ニ根本のニハ食糧問題、「インフ
レ問題、失業問題等ヲ解決スルコトガ
必要デアルノハ言フ迄モナイノデアリ
マス、政府モ是等ノ面ニ付テ能ク限リ
努力ヲ傾注致シマシテ、兩々相俟ツテ
勞働關係ノ公正ナル調整ヲ圖ツテ、日
本再建ニ資スル所存デゴザイマス、大
體此ノ法律ハ勞務法制審議會ノ審議ヲ
經マシテ、サウシテ特ニ公聽會ニモ懸
ケマシテ、勞務法制審議會ニハ勞働者
ノ代表モ相當御入りニナリ、サウシテ

小委員會案ノ作成等ニ當ツテ實ヒマシ
テ、大體此ノ輿論ヲ其儘映シテ居ル、
ソレカラ又組合法ヲ作リマスル時ノ
昨年カラノ沿革ニ微シマシテ、斯ウ云
フ法律ハ當然出ベキモノダト云フ一般
ノ期待モアツタト云フコトデ、此ノ内
閣ガ出來マシテカラ前內閣以來ノ繼承
シタモノヲ其ノ儘探上ゲテ實ハ提案
シタモノデアリマス、ソレデ内容ハ今
申シマシタ通りニ、勞働爭議ガ起ツタ
時ニ、如何ニシテ之ヲ豫防シ、如何ニ
シテ調整スルカト云フ其ノ技術的の方
法、是ハドウモ何處ノ國ニモアルコト
デアル、是ハサウヤラヌトイカヌ、勞
働組合法デモ其ノコトヲ豫見シテ居
リマス、ソレヲ第一ニ置イテ居ル、第二
ノ問題ハ全ク公益擁護ノ立場ニ於キマ
シテ、ソレハ今申シマシタ撓打爭議ニ
三十日間ノ餘裕ヲ設ケマシテ、突然
「ストライキ」ヲヤラレテハ、困ルコト
ガアル、例ヘバ交通關係ノ如キ、郵便、
電信ノ如キ、山ノ手爭議ナドノ例ニ付
テモ御體験ノ通りデアリマセウ、是ハ
一定ノ三十日ト云フ餘裕ヲ取ツテ置カ
ヌトイカヌ、サウシテ國民ノ日常生活
ガ困ルヤウニサレテハイカヌデヤナイ
カト云フ意味デ、各國トモ斯ウ云フ法
制ハアルノデアリマス、ソレカラモウ一
ツハ官吏ノ罷免ノ禁止デアリマス、官
吏ト申シマシテモ、國務ニ關係ノアル
官吏ヲ意味スルノデアリマシテ「エレ
グエーター・ボーイ」トカ小使ト云フモ
ノハ入ラヌデアリマス、本當ノ國家ノ
職務ニ關係ノアル官吏デアリマス、一
般官吏ガ萬一「ゼネ・スト」デモヤル

一精ニ出スコトハ出来マセヌノデ、急
イデ出スト云フコトニ對スル考ヲ持ッ
テ居ルト云フ風ノコトデ大體御了承ヲ
得タト思ヒマス、ソコデ衆議院トシテ
モ、矢張り附帶條件トシマシテ、勞働
基準法ヲ速ニ制定セシ、ソレカラ官
公吏ニ「ストライキ」ヲヤラセヌノダカラ、
待遇ノ改善ト云フコトヲ常ニ考ヘ
テ置カナケレバナラス、結局「ストライ
キ」ハ何ノ爲ニヤルカト云ヒマス、主
トシテ矢張り勞働條件ノ關係デアリマ
スルカラ、勞働條件ガ困ツタ時ニ「ス
トライキ」ニ依ツテ勞働條件ニ對スル
反省ヲ促スト云フコトガ一番太イ線ニ
ナツテ居リマスカラ、官公吏ニ「スト
ライキ」ノ途ガナイナラバ、絶エズ勞
働條件、俸給其ノ他ノ點ニ付テ考慮シ
テ置カナケレバナラヌデヤナイカト云
フコト内閣ニ特別ノ委員會ヲ設ケ
テ、サウシテ民主的ノ方法デ官公吏ノ
給與ト云フモノヲ絶エズ考ヘテ行ケト
云フ附帶決議ガ附イテ居リマス、御尤
モナコトト思ヒマス、ソレカラモウ
一ツハ本法ノ施行ハ何時カラスルカ、
其ノ施行期日ニ關シテハ餘程政治的ニ
考慮セヨト云フ決議文ガ附イテ居リマ
ス、ト申シマスノハ、例ノ「ゼネスト」
ノヤウナ話モ色々アリマシテ、是ハ勞
働調整法ガ初メ、非常ニヤカマシク言
ツテ居リマシタガ、最近ハ御承知ノ通
リ鐵道其ノ他ノ重要問題ト云フモノガ、
人員整理ノ問題ガ段々中心ニ移行シ
テ居ルヤウデ、「ストライキ」ノ傾向ノ
一番先ハ食糧問題ヲ中心トシマシタ手
當、食糧増加ノ問題カラ、斯ウ云フチ
ヨツト政治的ナ色彩ヲ帯ビタ勞働法ノ
反對ト云フモノガ混ツテ來マシテ、サ
ウシテ最近ハ事業整理ト云フコトニ對
スル問題ガ中心ニ起キテ來タト云フヤ

ウナ形ニナツテ居リマス、サウ云フ政
治情勢ハ色々アリマスルカラ、其ノ政
治情勢ト混シ合セテ、本法ノ施行ノ期
日ヲ決メタラ宜カラウト云フ附帶決議
デアリマス、政府ニ於キマシテハ此ノ
三ツノ決議ノ趣旨ハ十分尊重スルト云
フ答辯ヲ致シテ居ル次第デアリマス、
尙色々御尋ニ應ジマシテ細カイコトヲ
申上ゲマス
○種田虎雄君 チヨツト速記ヲ止メテ
戴キマス
○委員長(男爵渡邊修二君) 速記ヲ止
メテ……
〔速記中止〕

○委員長(男爵渡邊修二君) 速記ヲ始
メテ……
○中山太一君 資料ニ付テ大臣ニ御願
ヒ致シタイノデアリマス、豫告期間ノ
問題、是ハ長イ短カイト云フコトガ衆
議院ヲ論議サレテ居ルノデスガ、是ハ
「アメリカ」、英國等ニ於テハ豫告期間
ト云フモノハ大體ドウ云フ風ニナツテ
居リマス、ソレヲ知リタイト思ヒマ
ス、ソレカラ契約勞働デアル場合ニ、
相互ニ豫告スル義務ガアルト思ヒマス、
是ハ使用者側デケデナク、勞働者側
モ、是ハ其ノ契約期間内ニ變更スル場
合ニハ豫告期間ガ附イテ居リマス、斯
ウ云フモノハ慣例トシテドウ云フ風ニ
ナツテ居リマス、知リタイノデアリ
マス、又衆議院デ、否、衆議院ト云フ
ヨリモ此ノ項ノ新聞デ公聴會ニ於テ問
題ニナツタノデアリマスガ、使用者側
モ勞働者ノ豫告ヲ必要トスルト云フコ
トガ唱ヘラレテ居リマス、是ハ契約勞
働デナイノニ豫告ガ必要デアルカナ
カ、此ノ點モ「アメリカ」等實際ノ例ヲ
一ツ聞キタイト思ヒマス、ソレカラ賃
銀支給制ガ甚ダ不合理ナ狀態ニ置カレ

テ居ル、是モ「アメリカ」、英國等ノ賃
銀支給制度ガドウ云フヤウナ狀態デア
ルカ、大略デ宜シウゴザイマス、ソレ
カラ時間問題ニナリマスガ、時間ハ實
働ノ時間デアアルカ、大體トシテ八時間
制ガヤカマシク唱ヘラレテ居リマス、
其ノ八時間ト云フモノハ、實際ノ時間
デアアルカ、又形式的ノ時間デアアルカ、
是ハ審議ヲ進メル上ニ於テ有力ナ重要
ナ資料ト思ヒマス、是モ一ツ、
ソレカラ休日ノコトニ付キマシテ、諸
外國ノ休日ハ主トシテ日曜ニ重キヲ置
イテ居リマス、我が國デハ日曜モ休日
ト見又國際日、色々ト今後變ルベキ管
デアリマス、是モ休日ト看做サレテ居ル場
合ガアリマス、ソレカラ年末年始ノ休
ミモアリ、又舊習慣ニ依ツテ其ノ地方
地方ノオ祭り、所謂祭日ニモ休ミガア
ル、勿論ソレカラ益トカ其ノ他等モア
リマスガ、此ノ我が國ノ休日トシテ見
ラレルモノト外國ノ休日トシテ見ラ
レテ居ルモノト比較シタモノヲ戴クレバ
色々ノ質問ヲ御答辯戴ク上ニ於テ非
常ニ便宜ナモノト思ヒマス

尙豫告手當ト云フコトニ付テ、英米
ノ豫告手當ハドレ位ノ率ニナツテ居ル
ノカ、所謂日給ニドレデケノ額ノモノ
ヲ負擔スルヤウニナツテ居ルカ、又更
ニ年末、年度末ニ於テノ賞與ト云フモ
ノハ、向フノ勞働者ニ支拂フノハドウ
云フ狀況ニ於テ行レテ居ルカ、是ガ矢
張り爭議ノ一ツノ目標ニナル場合モア
リマス、又退職手當ト云フモノガ英米
ニ於テ其ノ比率ハドウ云フヤウニナツ
テ居ルカ、我が國ノ退職ノ手當ノ觀念
ト英米ノ退職手當ノ觀念ト云フモノハ
根本カラ違ツテ居ルニ拘ラズ、是ガ我
國ノ有利デアルモノハ其ノ儘看過サ

レテ、一部ノ不利ナモノガ強調サレテ
居ルト云フコトハ非常ナ不合理ナ點ガ
アリハセヌカト思ヒマス、是デケレ資
料ヲ御差支イテ限リ至急ニ戴キマスヤ
ウニ御願ヒシタイト思ヒマス、續イテ
今日ノヤウナ産業經濟界ガ重大難題ニ
直面シテ居ル時ハナイノデアリマス、
從ツテ勞資相互ニ道義的ナ而モ美シイ
感情ヲ以テ理解シ、所謂精神的ナ結合
ヲシテ行クト云フコトガ一番大切ダト
思フノデアリマス、サウシテ産業ノ再
建、復興ノ爲ニハ事業能率ノ昂揚ガ必
要デアアル、之ヲ只今ノヤウナコトデア
リマス、資本家ガ「サボタージニ」シ
テ居ルト言ハレルケドモ、實際ハ眞
剣ニ復興ニ努メテ居リナガラ實績ガ上
ラナイ、又一方デハ勤勞者ガドウモ不
眞面デアアル、又爭議ヲシテ居ルト云フ
コトモ言ハレル、又之ニモ種々食糧事
情其ノ他事情ガアルコトデアリマセウ、
之ヲ一々話シテ居ルハ、水掛論ニナ
リマスガ、要ハ双方ガ自覺シテ、サウ
シテ協力シナイ限リハ、産業ノ再建、
復興ハ至難ダト思フノデアリマス、サ
ウシテ中小商業ノ振興モ、國民生活
ノ安定モ、又平和日本ノ立派ナ再建モ、
ソレニ依ラナケレバ出來ナイト思ヒ
マス、政府ハ此ノ勞資間ノ積極的ニ理
解ヲスル、モウ少シ美シイ感情ヲ以テ
協力スル、對立デナシニ、進ンデ双方
ツテ協力シテ行クト云フヤウナ御考
ヘ、又ソレニ對スル對策ヲ御持チデハ
ナイノデアリマセウカ、ソレヲ御聽キ
シタイト思ヒマス

○國務大臣(河合良成君) 只今ノ御質
問ハ御尤ナコトデアリマシテ、出來ル
ダケ勞資双方ノ理解ト協力トデヤツテ
行カナクチヤナラヌト云フコトニ付テ

ハ、政府モ毛頭異存ハアリマセヌ、又
其ノ線ニ向ツテ進マナクチヤナラヌノ
デアリマス、唯モウ御承知ノ通りノ終
戰後ノ變革デアリマシテ、ソレデ何ヨ
リモ大切ナコトハ、結局人間ノ個性ノ完
成ト申シマス、個人ノ自覺ト申シマ
スカ、サウ云フコトガ御承知ノ通りノ
民主主義ノ根本ニナツテ居ルモノデア
リマスルカラ、從來矢張り日本トシテ
行ハレマシタ相當ノ封建的ノ思想ガ一
面ニアツタガ、ソレハハマア出來ルダケ
破ツテ、サウシテ勞働者ノ方面ニ付テモ
自由ニシナクチヤナラヌト云フコトガ、
御承知ノ聯合國ノ日本占領後ニ於ケル
聯合國ノ思想デモアリ、又政府モソ
レニ從ツテ「シテ居ルト云フ問題ヲ第
一ニ考ヘタ次第デアリマス、ソコデ經
濟事情ハ今御話ノ通りニ、食糧問題ナ
リ、或ハ資材ノ不足ナリ、或ハ經營ノ
困難ナリ、色々ナ問題ガ起ツテ來
タ眞中ニ、「デモクラシー」ノ進ム道ト
云フモノハ、一番大キナ道トシテ大キ
ナ眞中ヲ突キ抜ケテ行クモノデアアル、
其處ニドウモ思ハザル支障、思ハザル
色々ナコトガ起ルコトハ甚ダ政府ノ遺
憾トシテ居ル次第デアリマスガ、段々
落著イテ參リマス、殊ニ食糧問題ノ安
定モ目先ガ見エテ參リマシタ、是ガ決
マリマスレバ、「イソフレ」面ニ付テモ
サウ心配ガナカラウト云フ大體ノ所見
デゴザイマス、此ノ上少シ資材其ノ他
ノ物資デモ入ッテ來マシレバ、事業モ
起ツテ來ル、サウシマシレバ事業ト勞
働トノ面ノ調整モ段々圓滑ニ行ク、又
サウシナクチヤナラヌ、特ニ石炭ノ問題
ナリ、中小工業ノ問題ナリニ付テモ、
ドウシテモサウ云フ線ニ沿ツテ行カナ
ケレバナラヌト云フ考ヘデ居リマス
○中山太一君 只今ノヤウナ惡條件ノ

カト思ヒマス、農家が今ノ都市ニ於ケル勤勞者ノ如ク、一人ガ働イテ居ツテ家族ヲ皆養フト云フ觀念デアツタナラバ、一町歩モ決シテ耕作スルコトハ出來ナイ、所謂協同主義、皆共稼ギデヤツテ居ツテサウシテ能ク其ノ任務ヲ果ス、此ノ高物價時代ニ一人ガ何處カノ專業ニ關係シテ居ルカト云フノデ、ソレノミガ負擔スルト云フコトデハイケナイノデハナイカ、モウ少シ勤勞ノ權利ガアルト同時ニ義務ガアル、此ノ際ニハ皆ガ働イテ、サウシテ一家ノ生活ヲ安定セシムルト云フコトモ必製デハナイカ、生業ノ革命ト同時ニ生活ノ革命化行ハレナイ限りハ、此ノ際適當ニ之ヲ打開シテ行クコトハ出來ナイノデハナイカ、サウシテ一家ノ負擔ガ三人ナリ五人ニ依ツテ收入ガ得テレルノデ樂ニ負擔ニ堪ヘテ行クト云フコトニナレバ、茲ニ勤勞者ノ生活ニ餘程ユトリガ出來ルノデヤナイカ、今ノ體デアツタナラバ……ソレデ家族手當ト云フ意味デ政府デサウ云フ制度ヲツテ居ル、私ハ此ノ制度ガ一番間違ツテ居ルト思フデヤリマス、生活保護法ニ反對シテ居シレル某婦人代議士ノ如キ、家族制度ハ封建時代ノ遺物ト攻撃シテ其ノ内閣ニ對シ意見ヲ加ヘテ居リマス、ソレニモ拘ラズ五人、十人居ツテ家族手當ヲ最も高額ニ要求セラレルト云フコトニナルト、是ハ全然生産計畫ガ立タナイモノデアル、生産計畫ガ立タナイサウ云フモノヲ作ツテ、良イ物ヲ安ク市場ニ出サウト云フコトハ出來ナイ、出サナケレバナラヌガ、出來ナイ、サウスルト一方ニハ④押ハラテ居ルヨラ、ソレヲ作ルコトガ出來ナイ、ソレガ所謂生産者ノ、資本家ノ「サボタージュ」ト云フコトニナル

ノデ、故ニ無難ガアル、ソレカラ輸出
シテモ、サウ云フモノガ見返リ物資ト
シテ海外ノ市場ニ歡迎サレハ氣遣ヒ
ガナイ、必ズ閉出シテ喰フ、此處デモ
産業ガ行詰ル上ニ、後日交易ガ許サレ
ルヤウニナツテ輸入品ガアル時ニナル
ト、日本ノ今ノヤウナ出額目ナ貨銀ナ
リ手當法ノ總デアリマシタナラバ、私
ハ其ノ時ニ全部ガ崩潰シテシマス、日
本ノ産業ハ壊滅スルト云フ惧レガアリ
マス、此ノ大切ナ問題ヲ考慮サレズシ
テ利那ノ問題ノミニ没頭サレテ居ツタ
ナラバ、日本ノ再建ハ思ヒモ寄ラヌコ
トダト本員ハ深憂スル次第デアリマ
ス、厚生大臣ハ必ズ之ニ對シテ相當ナ
御抱負ガアル筈デアリマスガ、ソレニ
付テノ御意見ヲ聽カシテ戴キタイト思
ヒマス、又勤勞者ノ不幸デアルノハ、
先程御話ガアリマシタヤウニ、斯ウ云
フ不合連ナコトデハ産業家ガ堪ヘラレ
ナイカラ、家族ノ多イ人ハ雇ハナイヤ
ウニスルト云フコトデアリマス、社會
問題トシテ以テノ外デス、ケレドモ已
ムヲ得ナイコトデアアル、斯ウ云フ矛盾
ヲ直スコトガ厚生大臣ノ尊イ政治的ノ
使命ノヤウニ思ヒマス、家族ノ多イ者
ハ一層優先的ニ職ヲ得サセナケレバナ
ラナシ、ソレガ家族ノ多イ者ガ一番除
ケ者ニナル、斯ウ云フ社會的ノ矛盾ヲ
放任シテ置カレテ宜イモノデアルカ、
是ハ矢張り家族手當等ノ缺點デアリマ
ス、ソレヨリモ勤勞者ノ技能ヲ一層優
レサセテ、優秀ナル技能ヲ以テスレ
バ、今日ヨリモ遙カニ收入ガ殖エテ宜
イ、多額ノ收入ニナツテモ宜イガ、決
シテ高賃銀デハナイ、生産ノ上ニハ非
常ニ安イ負擔ニナル、産業家モ犧牲ニ
ナラズ、ソレデ勤勞者ハ益セラル、
サウシテ一般消費者モ良イ物ヲ安ク買

フコトガ出來ルカラ、是ハ三者共益サ
レル實質ガアルト思ヒマス、ソレカラ
收入ノ少イ人ハ技能ヲ益メ磨イテサウ
シテ自分ノ腕ニ依ツテ收入ヲ増ス、不
勉強ノ人ハ一層特別ニ勤勞ヲ進メテ、
サウシテ收入ガ殖エルヤウニスル、事
業ニ貢獻シテ、自分ノ力ヲ發揮シテ高
收入ニナルト云フコトニ仕向ケラレル
制度デナイ限りハ、私ハ産業ノ健全ナ
發展モ、ソレカラ物價ノ適正ナ價格ノ
維持モ、ソレカラ勤勞者ノ生活ノ地位
ノ安定モ不可能デハナイカト考ヘルノ
デアリマス、大臣ノ一ツ率直ナ御意見
ヲ御伺ヒ致シタイト思ヒマス
○國務大臣(河合良成君) 原價計算、
貨銀、物價等ニ互ツテノ重ネテノ御尋ネ
デアリマスガ、是ハ今日迄ノコトハ御
存ジノ通りデアリマス、御意見ノ點ハ
御尤モデアリマスルガ、今日迄ノ實際
ノ事實カラ見マスルト、生産者ガ採算
ガ取レル貨銀デ以テ、サウシテ其ノ貨
銀デ勤勞者ガ生活ガヤツテ行ケル貨銀
ト云フモノハ、實ハ今日迄出來ナカッ
タ、ト云フノハ御承知ノ通り戰爭ハ濟
ミマシタガ、今日非常ニ不生産的ニ金
ナリ物資ガ使ハレテ居ルヤウデアリマ
ス、ト申シマスノハ、復興建築ヲスル
ニシテモ、或ハ又引揚者ニ對シマシテ
モ、百何十億ト云フ金ガ要ツテ居ル、
ソレカラ今年アタリハ又終戦連絡事務
費トシテ聯合軍隊ノ軍人ノ家ナド造ル
コトニモ非常ナ金ガ掛リマス、ソレカ
ラ米ノ値段ニシテモ、消費者價格ト生
産者價格ト百圓ノ差ヲ置キマシテ、其
ノ差額ニ付テ三十億ノ金ガ要ルノデア
リマス、又石炭ニ關シテモ莫大ノ補助
金ガ要ルト云フヤウニ、戰爭ガ濟ンダ
ケレドモ、矢張り物ト云フモノ、努力
ト云フモノガ皆生産的ニ使ハレタカト

云フト、所謂經濟的ノ意味ニ於ケル生
産デナイモノニ已ムヲ得ズ使ツタ、戰
争ニ於テ是ダケノ穴ガ明イタ、損害ヲ
受ケタ、色々ナコトガアリマシテ、サ
ウ云フコトニズツト金ガ要ツタ、民生
安定ノ費用モサウデス、公共事業モサ
ウデス、サウ云フコトハ御承知ノ通り
ニ戰爭ノ反動トシテ色々ナモノガ要
ル、其ノ際間ヲ擱ヘマシテ、チヤシト
「コスト」ガ合ツテ、勤勞者ガヤレル貨
銀、是ハ到底出來ナイ、ドウモ出來ヌ
ノデ、何トカシタイ努力ハ政府モシ
テ居ルケレドモ、是ハ時ヲ待ツヨリシ
ヨウガナイ、其ノ時ハ現ニ進ミツ、ア
リマス、來年度ノ豫算ニナリマス、餘
程性質ガ變ツテ來マセウ、ソレカラ米
ノ問題モ、食糧問題モ斯ウ云フ風ニナ
ツテ、見返リ品ノ關係モ段々良クナツ
テ來タト云フコトニナツテ居リマスガ
ラ、段々「ギヤツ」ガ埋マルニ從ヒマ
シテ平常ニ歸ツテ來マス、サウシテ生
産者ノ方ト勤勞者ノ方トソコニ「バラ
ス」ガ段々取レテ來ル、ソレ迄ハ生
産者ノ方ハ場合ニ依ツテ積立金ヲ出シ
テ賣フ、勤勞者ノ方ハ貯金ヲ下ス、色々
ナコトデヤツテ行ク、ソレデ其ノ緊
ギヤツツテ、其ノ間ニズツチガ重イ、
ドツチガ輕カツタ、サウ云フ懸念ハ
ゴザイマセウガ、大體ニ於テ時ヲ進ムニ
從ツテ、其ノ「ギヤツ」ハ埋ツテ行ク
ト云フヤウナ情勢トナツテ參リマス、
唯遺憾ナコトニハ軍需補償ノ打切りノ
問題ガ起キマシテ、是ガ産業界ニ「シ
ヨック」ヲ與ヘ、金融界ニ「シヨック」
ヲ與ヘテ、又勤勞者ノ方面ニハ人員整
理ト云フ問題ガ起キテ來テ、段々正常
ニ來テ居ルモノガ、擬制資本ノ除去ト
云フコトヲ中心ニ致シマシテ、故ニ又
新タナ困難ニ際會シテ居ルト云フコト

ハ遺憾ナコトデアリマス、大體時ヲ以
テ其ノ「ギヤツ」ハ埋メテ行クト云フ
コトニ進ンデ居リマス、其ノ面デ一番
重要ナ問題ハ食糧ト云フコトデアリマ
ス、政府モ今御趣旨ノ所ニハ勿論方向
ヲ向ケテ居リマスガ、矢張り是ハ斯ウ
云フ大事件デアル、斯ウ云フ國ヲ擧ゲ
テ日本ノ受ケタ困難デアリマスガ
ラ、其ノ點モ御了承ヲ願ヒマス、併シ
今御話ノヤウナ線ニ向ツテ進ミツ、ア
ルコトハ疑ナコトダト云フ風ニ考ヘ、
テ居リマス、ソレカラ家族手當其ノ他
ノ點ニ付テハ御尋ネデアリマスガ、是ハ
家族手當ノ非常ナ膨脹ト云フコトハ、
是ハ矢張り終戦後ノ軍大ナ……戰爭
中ニモ相當アリマシタ點デアリマシ
テ、此ノ點モ何トカアデヤスト「ラシ
テ行クベキモノ」ダト考ヘテ居リマス、
併シ一面ニ於テ兎モ角モ食ツテ行カ
ナクチヤ仕儀ガナイト云フ點ガ現實ノ事
實ナモノデスカラ、此ノ制度ヲ動カス
コトニ依ツテ一部ノ方面ニ生活ガ非常
ニ苦シクナルト云フ事難ヲ起スヤウナ
方法ハ、是モ今急ニ執ルコト云フコトハ
ナカ……困難デアラウト思ヒマス、併
シ一面ニ於テ生活保護ノ面ニ於テ相當
ヤツテ行カナクチヤナラヌ、憲法ニ依
ル社會保障ニ對スル國家ノ責任ト云フ
點ヲ餘程強調シテ行カナケレバナリマ
セスカラ、サウ云フ面デ色々救濟出來
ル面モアリマセウシ、ト言ツテ「イギリ
ス」ノヤツタヤウナ風ニ、家族制度ナ
ドニ對スル非常ナ國庫ノ負擔ト云フヤ
ナコトニナツテモ、是モ亦「インフレ」
ヲ起ス原因ニナリマスノデ、非常ニ困
難ナ問題デアリマスルケレドモ、矢張
リ是モ今申シタ全體ノ國家ノ波ガ收マ
リマシテ、濁ッタ水ガ沈澱シテ居リマ
スル其ノ沈澱ノ度ニ應ジテ之ヲ解決

シ、又政府モ其ノ面ニ向ツテ努力ヲシ
テ行カナケレバナラヌト思ツテ居リマ
ス、ソレデ先程申シマシタ「プール」ノ
問題デスガ、家族手當トシテ一人二十
圓ヤツテ居ルモノモアリ、三十圓ヤツ
テ居ルモノモアリ、色々ニナツテ居リマ
スノデ、全體ヲ「プール」ニシテ補填ス
ルト云フヤウナコトニハハチチヨツタ
困難性ガアリマス、例ヘバ二十圓ナラ
バ二十圓ト云フヤウニ決ツテシマヘバ
「プール」ハ直チニ出來ル、出來ルガ、
是ハモウ工業ノ種類ニ依リマシテ、鐵
工業其ノ他ノ重工業、機械工業ニナレ
バ尙又違ツテ來マス、纖維工業ノ如キ
ハ手當金ヲヤツテ居ルハ少イト思ヒ
マス、ト云フヤウニ、業態ニ依ツテ違
フト思ヒマス、ケレドモ「プール」ニシ
テ補填スルニシテモドウ云フ方面デヤ
ルカ、或一定ノ限度デケレド二十圓ナ
ラバ二十圓ト云フ限度デヤルカ、或業
態ニ依ツテ分ケルカ、何處迄可能カト
云フコトハ、今色々調査シ、社會保險
制度調査會ニ於テモ調査シテ居ルヤウ
ナ次第デアリマス、實行可能ト思ハ
レル點ガアリマシタラ、其ノ點カラ實
行ヲ行タイト云フ風ニ考ヘテ居リマ
ス
○中山太一君 色々御説明願ヒマシタ
ガ、本員ノ申シテ居リマスノハ、收入
ヲ減ズルト云フ意味デナク、收入ハ現
在ヨリ殖エテモ合理的ナ意味ニナラナ
クレバイカスト云フコト、サウシテ勤
勞者ノ生活ヲ安定スル、之ヲ困ラス意
味デナクテ、安定スルコトガ必要デ、
今ノヤウナ不合理ナコトデアツタナラ
バ、決シテ製品ノ良イ物ヲ廉ク造ルト
云フコトニナラナイ、産業ノ健全ナ發
達ガ出來ヌ、ソコデ産業ハ何處迄モ合
理化シテ行カナケレバ良品ヲ廉ク造ル

爲方振興ニ依ツテ多角的ニ經營スルヲ、現在農家ノ家庭ニ一人若クハ二三入レテモ、高度ノ農業經營、或ハ多角の經營ヲ行レバ、ソコニ勢力ヲ相ニ收容シ得ル點モアルト思ヒマス。昭和六年頃ノ失業率ガ相當ニアリマシ、小賣業者ガ相當ニ數ガアリマシタ、百五十萬以上アリマシタ、是ガソモ家族カ失業者ヲ出サナイ、職失シテも管生活シテ居ル、ソレニナラズ人々ヲ、色々な救済者ヲ入アツタヤウナ方面ノ外ニモ、斯ウ云フ點ヲ御留意願ヘバ、相當ノ失業者ヲ收容スルモノト出来自然のチキナツ御考慮ノ中ニ入シテ戴キマセ。サガシテ是ガ一日君等ノ爲ニ盡困チ生活ヲ續ケ居ルハ相當ノ身分アリマスチニ想ヒサレマシテ、緊急ニ之ガ御解決ヲ爲サル次第アリマス、又今都市ノ中デヤツデアアル饑餓ノ跡ヲ一日モ早ク中菜園等ニスレバ、是モ食糧増産ニナカリテナク、金穀庭モ生活ニ惠ミテ、又大キキ負擔ヲ減ジテ行クコトトリヤキカラ、此ノ點モ關聯性ヲ持モンデアリマスノデ、之ニ對シテ御慮ヲ願ヒタイト思ヒマス、尙只今ノ饑爭戰ノ中ノ團體權ガ濫用サレテ居ヤウチ傾向、サウシテ無理チ要求ヲ徵セムトシテ居ル、サウシテ積極的物ヲ要求スル、ソレガ容レラレナイラ遂ニ同盟罷業ニナツタト云フノデタク、最初カラ罷業ヲ目的トシテヤラテ居ルヤウナ、所謂英國デブヘレテ

サレテ居ル、英國デハ獲測サレタ龍業ハ違法デアルト迄言ハレテ居リマスガ、日本デハ是ガ多イヤウデアリマスガ、政府ハ斯ウ云フノニ對シテハドウ御考ヘデアリマス、團體權トシテノ權利ノミナラズ、濫用ニ陥ルヤウナコトデナク、モウ少シ節制ガアリ義務モ遵奉スルト云フヤウナコトニ付相當規定スル必要ガアルト思ヒマスガ、今回御提案アリマシタノニハ、ソレガ考慮サレテ居ルト存ジマスケレドモ、政府ノ御考ヲ此ノ點ニ付テ承リタイト思ヒマス

○國務大臣(河合良成君) 先程ノ私ノ失業對策ノ問題ニ付テ、チヨット今御質問モアリマシタノデ、モウ一言附加ヘテ置キマスガ、今申シマシタノハ、主トシテ公共事業ノコトヲ申シタノデアリマスガ、其ノ外、聯合軍ノ爲メ家屋ヲ建テルノニ矢張り數十萬人ノ人ガ要ルトカ、サウ云フ面ニ對スル失業業者モ吸收サレマスルシ、ソレカラ今中山委員カラモ御觸レニナリマシテ一般ノ失業業者トハ非常ニ重大ナル關係ヲ持ツテ居リマスノデ、特ニ中小工業ノ勃興ト云フコトハ、失業對策ニ非常ニ重大ナル救済ノ力アリマスノデ、特ニ其ノ點ハ石炭ノ増産ニ依ツ所ガ非常ニ多イ、石炭ノ増産ガ何ヨリ失業對策ニ效能ガアルト云フ風ニ考ヘル次第デアリマスノデ、サウ云フ面ニ付テモ政府ハ出來ルだけ努力ヲシテ居リマス、ソレカラ又失業問題ノ性格ガ、只今御指摘ノ如クニ、多少外國ト違ツタ點ガアリマシテ、昭和六年頃ノ不景氣ニモ餘リ目立ツテ失業業者ト云フモノガ出マセヌデ、大分地方ニ數收サレタト云フ實績ガアリマスノデ、日本ノ此ノ家族制度ト申シマス少シ狭イデスガ、ソレヨリモ

廣イ意味ニ於ケル何カ一ツ日本ノ長イ間ノ慣行トシマシテ、失業問題ニハ案外地方の吸收力ト云フヤウナモノモ相當アルヤニ考ヘテ居リマスガ、勿論ソレ満足トハ思ヒマセヌカラ、先程申シマシタ色々ノ方法ヲ講ジテ積極的ニ救済シタイト云フ考デ居リマス、ソレカラ只今ノ労働者ノ爭議權ノ問題デアリマスルガ、是ハ矢張り只今御指摘ノヤウナ事實モ私ハアルト思ヒマス、併シドウシテモ是ハ労働組合ノ自覺、労働者ノ自覺ニ待タナクテハナラヌ問題デアリマシテ、此ノ問題ニ付テ事務ノ性質上、政府トシテ積極的ニ干涉ヲスルト云フヤウナ立場ハ執ツテ居リマセヌ、ナカノ斯ウ云フ問題ノ見解ハハムツカシイ問題デアリマス、正當ナル爭議ト云フ意味ニ於テハ、法律上、憲法及労働組合法上認ラレタ權利ニナツテ居リマス、ドウシテモ是ハ労働者及労働組合ノ自覺ニ待タナクテハナラヌト云フ風ニ大體問題ヲ取扱ツテ行ツテ居ルノガ只今ノ現狀デアリマス、併シ是ハ正當ナラザル範圍ニ入りマス時ニハ、ソレハ政府トシテ色々制限ヲ致シマス、ト申スノハ、例ヘバ生産管理ノ問題ノ如キ其ノ一例デアリマス、サウ云フ風ニ御了承ヲ願ヒタイト思ヒマス

廣イ意味ニ於ケル何カ一ツ日本ノ長イ間ノ慣行トシマシテ、失業問題ニハ案外地方の吸收力ト云フヤウナモノモ相當アルヤニ考ヘテ居リマスガ、勿論ソレ満足トハ思ヒマセヌカラ、先程申シマシタ色々ノ方法ヲ講ジテ積極的ニ救済シタイト云フ考デ居リマス、ソレカラ只今ノ労働者ノ爭議權ノ問題デアリマスルガ、是ハ矢張り只今御指摘ノヤウナ事實モ私ハアルト思ヒマス、併シドウシテモ是ハ労働組合ノ自覺、労働者ノ自覺ニ待タナクテハナラヌ問題デアリマシテ、此ノ問題ニ付テ事務ノ性質上、政府トシテ積極的ニ干涉ヲスルト云フヤウナ立場ハ執ツテ居リマセヌ、ナカノ斯ウ云フ問題ノ見解ハハムツカシイ問題デアリマス、正當ナル爭議ト云フ意味ニ於テハ、法律上、憲法及労働組合法上認ラレタ權利ニナツテ居リマス、ドウシテモ是ハ労働者及労働組合ノ自覺ニ待タナクテハナラヌト云フ風ニ大體問題ヲ取扱ツテ行ツテ居ルノガ只今ノ現狀デアリマス、併シ是ハ正當ナラザル範圍ニ入りマス時ニハ、ソレハ政府トシテ色々制限ヲ致シマス、ト申スノハ、例ヘバ生産管理ノ問題ノ如キ其ノ一例デアリマス、サウ云フ風ニ御了承ヲ願ヒタイト思ヒマス

○中山太一君 今回提案サレタ中ニモ、又政府モ色々實際カラ御考ヘニナツテモ是ガ考慮サレテ居ルヤウデアリマスガ、經營協議會ト云フコトデアリマス、是ハ果シテ經營協議會ト云フヤウナ意味デ行ハレテ居ルガ、好イ成績ガ擧ツテ居ルカドウカ、十分行ハレナガラ爭議ガ繰返サレテ出ルヤウデアリマス、ソレカラ名稱モ觀念モソレデ宜イカドウカ、經營ト云フコトモ、

労働者ト經營者ノ一部ニ依ル經營協議會ト云フノガ宜イノカドウカ、生産管理ノ問題ガ自主的デナケレバナラヌト云フコトガ分ツテ居ル時ニ、經營ト云フモノハ株主ト經營者トノ關係カ、經營者ト労働者トノ關係ニ於ケル經營協議會、ソコデ決メタモノガ絕對ノ權限ガアルヤウナ風ニ迄取扱ハレヨウトシテ居ルヤウナ傾向ガアル、是ガ果シテドウデアルカ、寧ろ名稱モ工場協議會トカ、職場協議會、生産協議會、業務協議會ト云フヤウナ意味ニ改メラレト云フモノハ株主ト經營者トノ間ニモアリ得ベキモノデアル、單ニ労働者ト經營者トノ間ニ用ヒラレル言葉トシテハ適當デハナイノデヤナイカト思ハレマスガ、此ノ點モ政府ハドウ御考ヘニナリマス、又政府ハ労働者ノ團體、所謂労働組合ノ尊重ト同時ニ團體權ヲ尊重シテ、是ガ段々労働組合ノ出來ルコトヲ或ル意味ニ於テ獎勵デハナイカレドモ促進ナサレテ居リマスガ、諸外國ニ於テハ使用者モ孤立デナシニ、使用者團體モ労働組合ト同ジヤウナ形ニ置イテアツテ、サウシテ平時デアリ、地位モ總テガ對等ノ下ニ、合理的ノ交渉ガ行レテ居ルヤウデアリマス、日本デハ使用者ハ孤立シタ狀態デアツテ、サウシテ労働者ノ團結ノミガ出來テ居ル、労働組合ガ出來ルト云フ時ニ、併セテ使用者關係モ適當ナル業種組合等ノコトガ計畫サレナケレバナラヌノデヤナイカ、是ガ全然放任サレテ、一方ニニ偏シタヤウナヤリ方アル、又労働組合ガ設ケラレルト云フ時ニハ必ず今同ノヤウナ調整法ガ伴ハナケレバナラヌ、一面ニハ別ノ基準

法トシナケレバナラヌ、サウデナクテ労働組合法ガ制定サレルナラバ……ソレト同時ニ爭議ガ目的デナク、何處迄モ勞資ノ合理的ナ協力ニ依ツテ労働者ノ生活モ保護シ、向上セシメル、同時ニ日本ノ産業ヲ健全ニ發達サセ、サウシテ社會大衆ノ福利ヲ増進スルト云フコトニ容與貢獻シナケレバナラヌノデアリマス、ソレガ組合ガ先ニ設ケラレタノハ、我々ハ不合理ダト思ハレマス、一緒デナケレバナラヌト思ヒマスガ、ソレガ一步進ンデ、後先ガマダ伸ビナイ、組合ノミガ先ニ設ケラレカッタラ、左程爭議ガ繰返シテ起ラズ、モウ少シ勞資ノ間ガ協力的ナ態度ヲ以テ進ムコトガ出來タノデハナイカト思ハレマスガ、政府ノ方ニ於テハ使用者側ノ組合ニ對シテ、又團體ニ對シテ、ドウ云フ御考ヲ御持チニナツテ居ルノデアルカ、又今ノ經營協議會ト云フコトハ色々ノ程度カラ其ノ名稱ガ適當デハナイ、工場協議會、職場協議會、生産協議會若シクハ業務協議會ト云フヤウナ實質ノ伴ツタ意味デナイトイケナイ、此ノ資料ヲ見マシテモ、其ノ經營協議會ナリ、労働協約ハ、工場長ニ依ツテ大概締結サレテ居ル、工場長ガ所謂重役デナケレバ決メラレナイコト迄決メル、其ノ協議會デ決メタコトハ遵奉スル、會社ガ或程度守ラナケレバナラヌ義務負ハサレテ居ル所モアルヤウデアリマス、此ノ點ハ其ノ局面ヲ相當ニ限定スルコトガ必要デハナイカト思ヒマス、大臣ノ御考ヲ伺ヒマス

○國務大臣(河合良成君) 只今經營協議會ニ付テノ御考ガアリマシタガ、之ガ權利關係ト、ソレカラ事實上ノ權利トハ、政府ニ於テハ、矢張りハツキリ區別シテ考ヘテ居リマス、企業權、經營權ト云フモノト労働權ト云フモノトハ等シクハ憲法カラ發シテ居ル、蓋本人權カラ發シテ居ル所ノ二ツノ權利デアルノデ、其ノ間ノ截然タル區別ハ法律的ニハツキリ付ケテ居リマスノデ、經營協議會ト云フ名ガ付イテ居ルカラト云フコトデ、労働者ガ經營權ノ右出來ルト云フ觀念デハアリマセヌ、其ノ點ハ法律的ニハツキリ區別シテ居リマス、ソレカラ特ニ經營協議會ナドニ人事トカ、經理ナドノ問題ニハ立入ツテ與レルナト云フヤウナ方針ヲ執ツテ居ル次第デアリマス、併シ此ノ事實上ノ問題ト致シマシテ、工場經營ニハドウシテモ勞務ト云フモノガ非常ニ重大ナ役割ヲ成シテ居ルコトハ言フ迄モナイコトデアリマス、勞務ノ面ヲ無視シテハ到底生産ハ出來ナイノデアリマスルカラ、ソレデカラ生産ノ實行ト云フコト、經營ノ實行ト云フ面ニ關シマシテハ、労働者トノ間ニ御互ニ出來ルダケノ協議ヲ遂ゲテ行ツタラ宜イノデハナイカト云フ一ツノ考ハ持ツテ居ル譯デアリマス、ソレデ其ノ線ニ沿フコトニ依ツテ自ラ經營協議會トナツテ來ツタ譯デアリマシテ、決シテソレハ經營權ノ侵犯ト云フ問題デアリマセヌ、ソレカラ又ソレニ依ツテ工場長ガ株主總會ヲ拘束スル、或ハ社長ノ權限ヲ拘束スルト云フ性質ノモノデハアリマセヌ、是ハ出來ルダケソレハ尊重シテ置ヒタイト云フ精神ニ於テヤツテ居リマス、併シ是ハ委任狀デモ持ツテ來マスルトカ、代表權ヲ持ツテ行ツタ時ニハ、是ハ會社ガ交渉スルモノデアルト考ヘテ居リマス、其ノ名ニ付キマシテ色々御議論ガアリマシタガ、是モ御尤ナコトトハ、存ジマスルガ、是ハ經營協議會ト云フ名ヲ付ケナケレバ

労働者ト經營者ノ一部ニ依ル經營協議會ト云フノガ宜イノカドウカ、生産管理ノ問題ガ自主的デナケレバナラヌト云フコトガ分ツテ居ル時ニ、經營ト云フモノハ株主ト經營者トノ關係カ、經營者ト労働者トノ關係ニ於ケル經營協議會、ソコデ決メタモノガ絕對ノ權限ガアルヤウナ風ニ迄取扱ハレヨウトシテ居ルヤウナ傾向ガアル、是ガ果シテドウデアルカ、寧ろ名稱モ工場協議會トカ、職場協議會、生産協議會、業務協議會ト云フヤウナ意味ニ改メラレト云フモノハ株主ト經營者トノ間ニモアリ得ベキモノデアル、單ニ労働者ト經營者トノ間ニ用ヒラレル言葉トシテハ適當デハナイノデヤナイカト思ハレマスガ、此ノ點モ政府ハドウ御考ヘニナリマス、又政府ハ労働者ノ團體、所謂労働組合ノ尊重ト同時ニ團體權ヲ尊重シテ、是ガ段々労働組合ノ出來ルコトヲ或ル意味ニ於テ獎勵デハナイカレドモ促進ナサレテ居リマスガ、諸外國ニ於テハ使用者モ孤立デナシニ、使用者團體モ労働組合ト同ジヤウナ形ニ置イテアツテ、サウシテ平時デアリ、地位モ總テガ對等ノ下ニ、合理的ノ交渉ガ行レテ居ルヤウデアリマス、日本デハ使用者ハ孤立シタ狀態デアツテ、サウシテ労働者ノ團結ノミガ出來テ居ル、労働組合ガ出來ルト云フ時ニ、併セテ使用者關係モ適當ナル業種組合等ノコトガ計畫サレナケレバナラヌノデヤナイカ、是ガ全然放任サレテ、一方ニニ偏シタヤウナヤリ方アル、又労働組合ガ設ケラレルト云フ時ニハ必ず今同ノヤウナ調整法ガ伴ハナケレバナラヌ、一面ニハ別ノ基準

アラタト云フコトハ、決シテ之ヲ決
メテ居ル譯デハアリマセヌ、工場協
議會デモ、業務協議會デモ、ソレハ
御同意デ宜イト云フコトニオツテ居
リマス、サウシテ經營協議會ト云フ
モノヲ作ルガ、政府ガ之ヲ作レト云
フコトヲ命ズル譯デモアリマセヌ、
此ノ點ニ付キマシテハ、基準ヲ作ッ
タラドウカトカ色々議論ガアリマシ
タ、政府トシテハ一定ノモノヲ示ス
ノハドウダラウト云フ考カラ、中央勞
働委員會デ一ツノ見本ノヤウナモノヲ
作ッテ、大體ノ基準ハ労働委員會トシ
テ示シテ居リマス、ト申スノハ、只今
迄經營協議會ト云フ方ノ實際ガ却ッテ
行キ過ぎテ居ル點ガ多アルヤウデア
リマシテ、サウ云フキウナ點ノ自覺モ
必要デヤナイカト云フ意味ヲ以テ其ノ
基準ヲ示シタ譯デアリマス、ソレカラ
第二ノ問題ノ事業側ノ團體ト云フコ
トデアリマスガ、是ハ矢張り労働問題
トシテ探リ上ゲル時ニハ、事業者側ノ
方ハ今迄ガツチリシタ組織モ力モ持ッ
テ居ルノデアツテ、民主主義ノ實行ニ
一番先ニ探リ上ゲベキモノハ労働者側
デアルト云フ事實上ノ見地カラ、其ノ
面ニ重點ヲ置カレテ組合ナドガ出来
テ居ル譯デアリマス、勿論憲法ニモ勞
働權ヲ認メル代リニ財産權ヲ認メルト
云フ點ニ、兩方トモ兩立シテ居リマス
ケレドモ、日本ノ從來カラノ實情、特
ニ終戦後ノ現狀ニ於キマシテハ労働權
ノ確認ト云フ方ガ最も急ヲ要スル問題
ダト云フ意味ニ於テ、組合法ダケヲ先
ヅ探リ上ゲタ、サウシテ實際ノ力ヲ持
ッテ居ル事業者側ノ團體ノ如キノ方ハ
獎勵的ノ態度ヲ執ラヌト云フコトダケ
デアリマシテ、是ハモウ實際ニハ幾ラ
御作リニナツタモ宜イ、又作ラレタ方

ガ宜イト云フコトモ考ヘテ居リマスル
ケレドモ、ソレヲドウカオヤリ下サイ
ト云フコトヨリ、寧ロ労働者側ノ方ニ
労働問題ノ民主的促進ヲ圖ルト云フコ
トガ大體ノ方針ニナツテ居リマス、其
ノ線ニ沿ウチ主ニヤツテ居ルコトヲ御
了承願ヒタイ、特ニ私ハ其ノ問題ニ付
テ申上ゲルコトノ出来ヌノハ、是ハ私
ノ方ノ所管デナイト思ヒマスカラ、多
分閣下大臣ノ所管ニナツテ居ルト思ヒ
マスカラ、其ノ點ヲ御了承願ヒタイ
ト思ヒマス

○委員長(男爵渡邊修二君) 本日ハ是
ニテ散會致シマス、明後十一日午前十
時カラ開會致シマス

午後零時三分散會

出席者左ノ如シ

委員長 男爵渡邊 修二君
副委員長 子爵高木 正得君
委員

公爵三條 實譽君
侯爵東鄉 彪君
侯爵鍋島 直泰君
伯爵主生 基泰君
子爵秋月 種英君
子爵松平 乘統君
子爵大久保 教尙君
子爵三宅 直胖君
桑木 嚴範君
吉田 久君
男爵松本 本松君
男爵山根 健男君
男爵山名 義鶴君
男爵中村 徹雄君
種田 虎雄君
我妻 榮君
正田貞一郎君
竹中巖右衛門君
中山 太一君

國務大臣 片倉兼太郎君
秋田 三一君
古垣 鐵郎君
厚生大臣 河合 良成君
政府委員 吉武 惠市君
厚生事務官 富樫 總一君
同